

## ま え が き

今年度も11月25日に全学的環境科学の研究会が、松本の旭会館と長野の工学部を結ぶネットワークで、前年度と同じように、開催された。前年度に引き続き、アンケートに基づき研究費の一部が配分されたので、配当された研究班の代表者が、研究の紹介を会員に行うこととした。発表の機会は1990年の1月20日にも予定されているので、プログラム作成の都合上、発表演題を両者に分けることとした。何れの研究も着実な成果を挙げつつある様子である。

今年度の特徴は、環境問題が世界的な話題となり、政治家や一般人の間にも、この問題に関心が深まってきたことである。平成元年度は環境元年であり、信州では信州環境元年であるとも言われている。その意味においては、本会の歩みは時代の流れを先取りしたものであったとも言える。さしあたり、信州ではゴルフ場問題とか冬期オリンピックの招致問題などもかかえ、地元からの社会的要請に答えなければならない面もある。しかし、大学を中心とする研究会は、あくまで学問的であり、かつ格調の高いものでなければならぬことは、十分に自覚しておかなければならない。

環境の問題は常に後おいをするだけでなく、事前に悪化を防止し、学問的裏付に基づく公正な判断により、人間の生存に好ましい環境が保全されることが、今後も期待されることであろう。

1990年1月10日

世話人 上田五雨